

乙 貞 おと さだ

第63号 通巻13巻 第2号

1992年7月1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター

☎0775-85-4397

〒524-02

守山市服部町2250番地

はじめに

人間にとっては梅雨明けが待ち遠しいこのごろですが、二千数百年前、日本にもたらされた稲はその故郷の気候に似た蒸し暑さを喜んでいるようで、2カ月前ひ弱だった早苗は褐色の水田を緑で覆い尽くすまで成育しています。市内遺跡の発掘調査も前号の「乙貞」でお伝えしてから2カ月の間に大きな進展をみせました。それでは5、6月の発掘調査の動向を報告いたします。

【発掘調査だより】

一覧表のとおり、2カ月間に5遺跡9地点で新たに調査が実施され、5遺跡7地点の調査を終えています。梅雨入り後、6月末までは空梅雨であった事が幸いしました。終了した調査のうち、川田、酒寺遺跡の2地点の調査は平成3年度からの継続調査です。調査結果ならびに経過をお伝えします。

〔5～6月実施調査一覧表〕

(次頁に位置図を掲載)

遺 跡 名	所 在 地	調 査 原 因	調 査 期 間	備 考
1 吉身西遺跡	守 山 町	共同住宅建築	5. 10	
2 酒 寺 遺 跡	播磨田町	区画整理	4. 1～5. 30	3年度からの継続調査
3 川 田 遺 跡	川 田 町	工場建築	4. 1～5. 30	3年度からの継続調査
4 吉身中遺跡	吉 身 町	庁舎増築	5. 16～ 17	
5 吉身西遺跡	守 山 町	個人住宅建築	5. 26～ 28	補助事業調査
6 伊 勢 遺 跡	伊 勢 町	倉庫建築	6. 8～ 10	
7 吉身西遺跡	守山町	倉庫建築	6. 15～ 30	
8 下 長 遺 跡	古 高 町	工業団地造成	4. 15～	3年度からの継続調査
9 糠 畠 遺 跡	播磨田町	共同住宅建築	5. 7～	
10 吉身西遺跡	下之郷町	道路建設	5. 15～	
11 酒 寺 遺 跡	播磨田町	店舗建築	6. 22～	
12 伊 勢 遺 跡	伊 勢 町	倉庫建築	6. 25～	

□ □ □ 終了した調査 □ □ □

■酒寺遺跡（別表2）

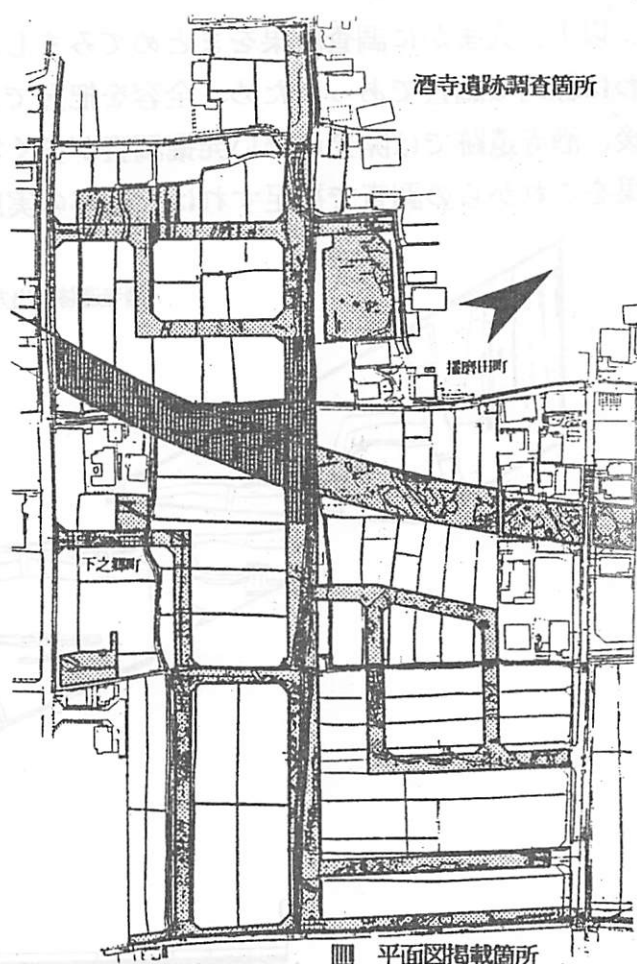
播磨田町地先の土地区画整理事業に伴って平成3年7月から実施していた酒寺遺跡の発掘調査は5月30日に終了しました。調査面積は都合12,000㎡で、縄文時代から近世の数々の成果を得ることができました。その都度この「乙貞」で報告してきましたが、終了にあたり今回の調査を時代別にまとめたいとおもいます。

〔縄文時代後期〕 調査区の南西側の一角で、縄文土器の細片とサヌカイトという硬質の石でつくられた石鏃や剥片が多量に出土しました。遺構は検出されませんでしたので、縄文時代の生活跡の確認も今後の酒寺遺跡の課題です。

〔弥生時代中期～後期〕 この時代の遺構としては、方形周溝墓（平面図）と4条の溝がみつかり、墓の溝底からは供えられた弥生土器が多数出土しています。元年度以降、今回の調査までで約40基の方形周溝墓を検出しています。検出場所や築かれた時期によって2グループに分けることができ、酒寺遺跡には2カ所の弥生時代の墓地があったことが分かりました。また、溝は下之郷遺跡でみつかり、環濠（弥生時代のムラの周りに巡らした濠）の続きである可能性が残っています。

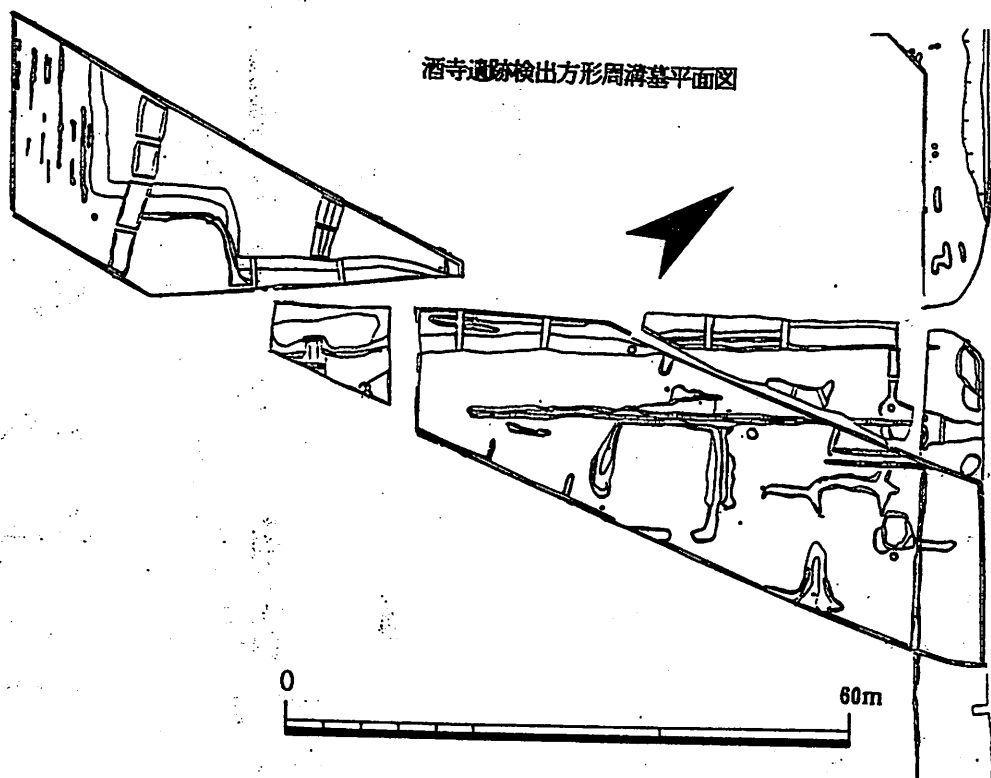
〔古墳時代前期〕 古墳時代前期の井戸を2基検出しています。そのうち1基は木材をくりぬいてつくった井戸枠が残っていました。井戸の検出によって、周辺にこの時代のムラが営まれていたと考えることができます。

〔古墳時代後期〕 調査によって古墳時代後期のムラがみつかりました。多数の建物柱穴や溝、土壇がみつかり、ムラは直径200mほどの範囲であったと考えられます。



〔鎌倉時代〕 区画溝を伴う掘立柱建物群を部分的に検出しました。区画溝や掘立柱建物柱穴から出土した土師器(はき)、黒色土器片から鎌倉時代の建物であることがわかりました。

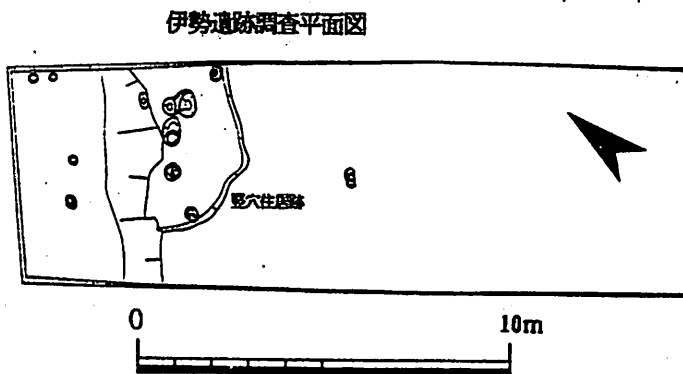
以上、大まかに調査成果をまとめてみました。あいにく道路建設地という、いわば線的な調査であったため、全容を把握できる成果は少なかったのですが、今後、酒寺遺跡では開発に伴い発掘調査が多く実施される事が予想でき、今回の成果をこれからの調査で補足すれば、遺跡の実態が鮮明になってくると思います。



■伊勢遺跡（前表6）

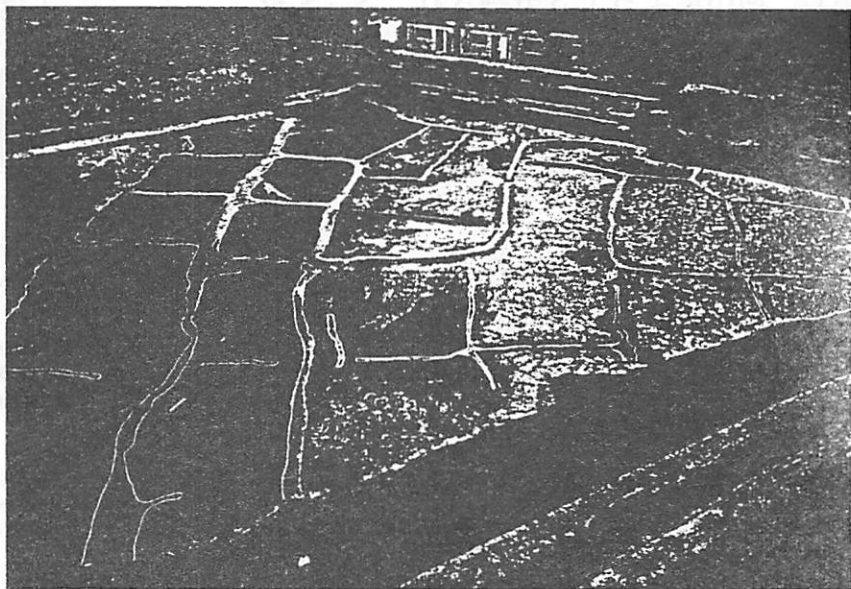
調査地は伊勢町字大將軍に所在する造成地で、JR琵琶湖線の南東沿いに位置します。貸倉庫建築に先立ち、約 100 m²を発掘調査したところ、竪穴住居跡1棟とピット数穴を検出しました。

竪穴住居は部分的な調査でしたが、形状から円、方形ではなく五角形をした住居の可能性があります。なお、これまでに伊勢遺跡では「五角形住居」を5棟検出しています。

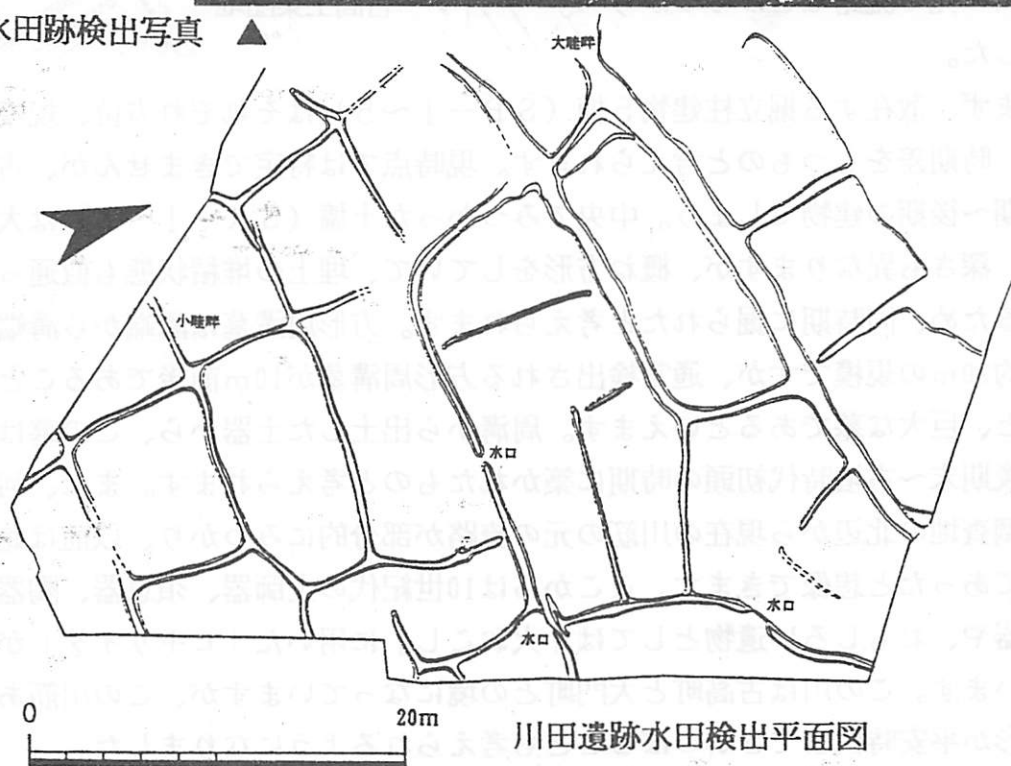


■川田遺跡（前表3）

川田町の工場地内で工場建築に先立ち、平成3年12月から継続して実施してきた調査は5月30日に終了しました。新聞でも報道されました古墳時代の水田跡がみつかったため、現地説明会を開催したところ、悪天候にもかかわらず70名余りの参加者があり、貴重な調査成果を報告することができました。水田跡については前号でも掲載しましたが、川の氾濫で覆われた砂を慎重に取り除くと、写真、図のとおり大きな畦と水田を区画する小さな畦を検出することができました。なお、水田1区画は50～70m²の広さで、方形状に近い形のものが多く、大きな畦には水口（みぐち）も確認しています。



水田跡検出写真 ▲



川田遺跡水田検出平面図

□□□ 実施中の調査 □□□

■下長遺跡（別表8）

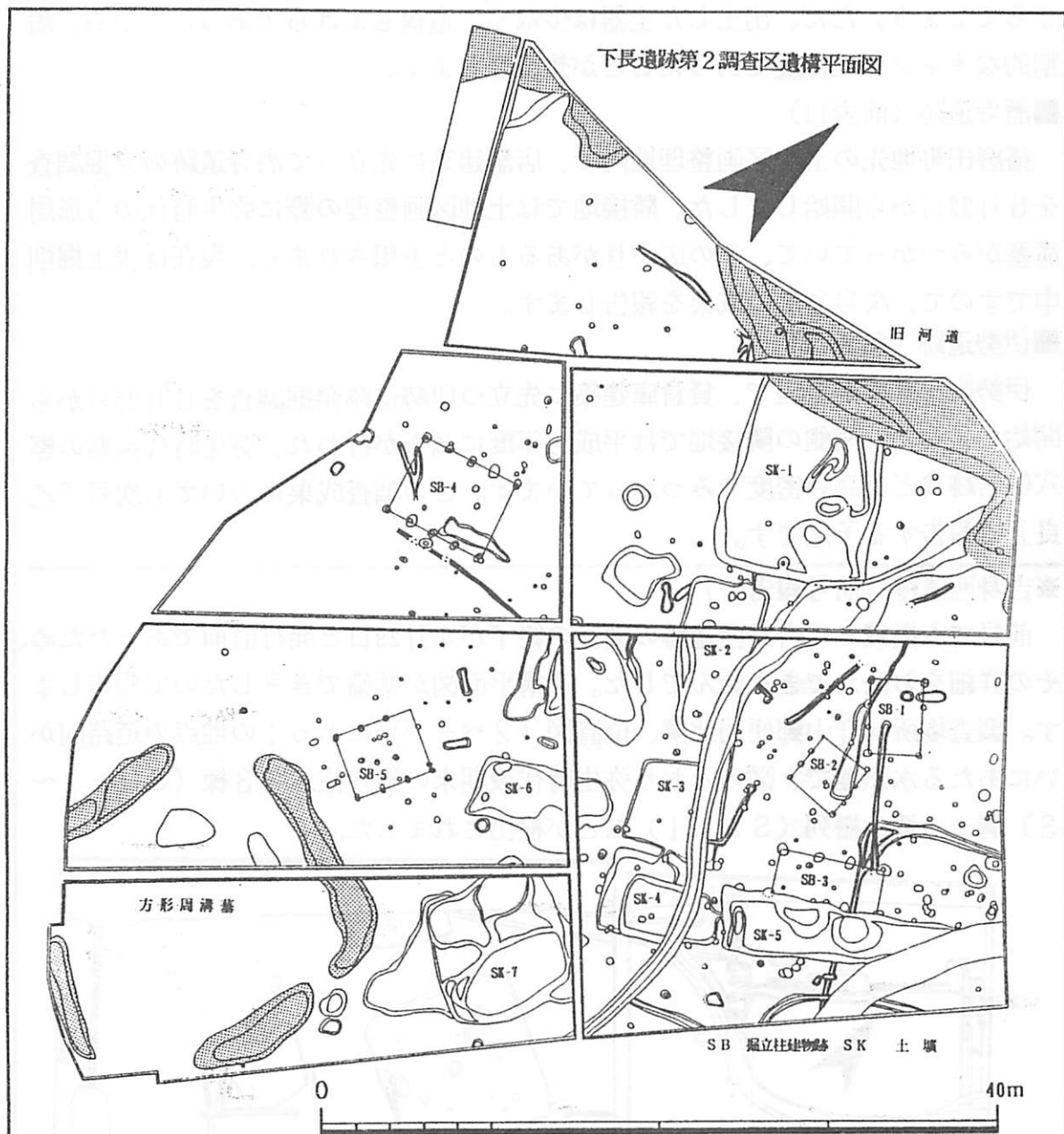
工業団地造成に先立ち平成3年度から継続して実施している調査。本年度は4月15日から開始し、河川によって3分割されているうちの1つである第2調査区の調査を6月上旬に終えました。この第2調査区の成果について報告します。

南北両側を河川で画されている第2調査区は、約3000㎡の面積があります。ここを7区に分けて調査を進めた結果、掘立柱建物跡5棟、土壇、溝、ピットと方形周溝墓1基、そして現況河川の元の流路などがみつかりました。

まず、散在する掘立柱建物5棟（SB-1～5）はそれぞれ方位、規模を異にし、時期差をもつものと考えられます。現時点では特定できませんが、古墳時代前期～後期の建物でしょう。中央でみつかった土壇（SK-1～7）は大小様々で、深さも異なりますが、概ね方形をしていて、埋土の堆積状態も似通っているため、同時期に掘られたと考えられます。方形周溝墓は溝端から溝端まで一辺約20mの規模ですが、通常検出される方形周溝墓が10m前後であることと比べると、巨大な墓であるといえます。周溝から出土した土器から、この墓は弥生時代後期末～古墳時代初頭の時期に築かれたものと考えられます。また、河川沿いの調査地の北辺から現在の川筋の元の流路が部分的にみつかり、以前は蛇行した川であったと想像できます。ここからは10世紀代の土師器、須恵器、陶器、黒色土器や、おもしろい遺物としては「火おこし」に用いた「ヒキリイタ」が出土しています。この川は古高町と大門町との境になっていますが、この川筋あるいは地形が平安時代までさかのぼることも考えられるようになりました。

現在、第3調査区を発掘調査中ですので、次号でその成果を報告します。

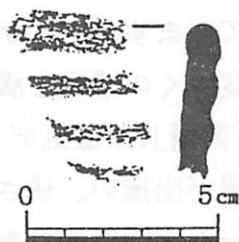




■吉身西遺跡（前表10）

5月15日から下之郷町字上高田で道路建設に伴う発掘調査を実施しています。これまでに上下2層の遺構が確認されています。上層からは古墳時代前期の方形周溝墓1基と溝5条が、そしてこの40cm程下層からは縄文時代後期頃の土坑や浅い落ち込みなどがみつかっています。隣接する福祉保健センター予定地では、昨年の調査で縄文時代の自然流路が発見されていて、今回見つけた遺構は川沿いに営まれた集落跡と考えることがで

▼出土縄文土器



きるでしょう。ただ、出土した土器は少なく、遺構もまばらであることから、短期的なキャンプ地程度であったことが想像されます。

■酒寺遺跡（前表11）

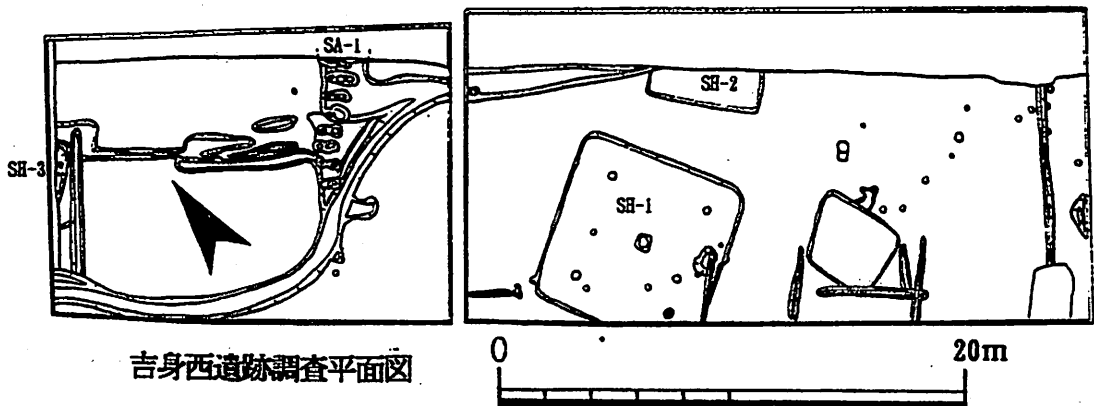
播磨田町地先の土地区画整理地内で、店舗建築に先立って酒寺遺跡の発掘調査を6月22日から開始しました。隣接地では土地区画整理の際に弥生時代の方形周溝墓がみつかっていて、その広がりがあるものと予想されます。現在は表土掘削中ですので、次号でその成果を報告します。

■伊勢遺跡（前表12）

伊勢町集落の南東辺で、貸倉庫建築に先立つ伊勢遺跡発掘調査を6月25日から開始しました。南側の隣接地では平成2年度に調査が行われ、弥生時代後期の竪穴住居跡などが高い密度でみつかっています。この調査成果についても次号「乙貞」で報告する予定です。

※吉身西遺跡（前号報告分）

前号でも掲載した吉身西遺跡の調査の終了が4月29日と発行直前であったため、その詳細をお伝えできませんでした。遺構平面図が準備できましたので報告します。調査場所は守山郵便局北隣、位置図（2ページ）にある1の地点の道路向かいにあたる水田地で、図のとおり弥生時代後期末の竪穴住居跡3棟（SH-1～3）溝、土壇、柵列（SA-1）などが検出されました。



【後記】 発掘調査でみつける遺構、遺物は古代からのメッセージや情報を備えています。なかでも最近みつかった絵画土器は細片であるにもかかわらず、大変多くの情報を満載しています。他の「出土品」とこの「絵画土器」を比較すると、「書籍」と「磁気ディスク」くらいの格差があるのではないのでしょうか？ 発掘調査成果が出揃い、皆さんにお伝えすることが多くなり、前号4ページから倍増の8ページと短絡的な編集に終始してしまったことを反省しています。（馬耳東風）